



2019年11月12日

報道関係者各位

慶應義塾

第709回三田演説会（11/26）
「子どもを育む遺伝の力、環境の力」
高橋 孝雄 慶應義塾大学医学部小児科学教室教授

三田演説会は慶應義塾で1874（明治7）年に始まり、2015年7月に第700回を数えました。11月26日（火）に第709回三田演説会を開催し、「子どもを育む遺伝の力、環境の力」と題して高橋 孝雄 慶應義塾大学医学部小児科学教室教授が講演します。

つきましては、本演説会のイベント欄へのご掲載、およびご取材をよろしくお願いいたします。

1. 開催概要

- (1) 日 時 : 2019年11月26日（火） 14時45分～16時15分（開場14時00分）
- (2) 講演者 : 高橋 孝雄（たかはし たかお）
（慶應義塾大学 医学部 小児科学教室教授）
- (3) 演 題 : 「子どもを育む遺伝の力、環境の力」
遺伝子によって緻密に計画されたシナリオに基づき、しかし、その一方で環境要因に強く影響を受けながら、子どもたちは健やかに発育し、発達していきます。その過程で、遺伝と環境がどれほどの影響力を持つものか、小児科医としての体験をもとにお話しし、我々おとなは子どもたちのために何ができるのか、ご一緒に考えてみたいと思います。
- (4) 会 場 : 慶應義塾大学（三田キャンパス）三田演説館
東京都港区三田 2-15-45
- (5) 交 通 : JR 山手線・京浜東北線 田町駅下車（徒歩約8分）
都営地下鉄浅草線・三田線 三田駅下車（徒歩約7分）
都営地下鉄大江戸線 赤羽橋駅下車（徒歩約8分）
<https://www.keio.ac.jp/ja/maps/mita.html>
- (6) 参 加 : 入場無料・申込不要（定員約140名）
※座席は先着順です。満席の場合は立見または入場を制限させていただく可能性がございますので、ご了承ください。

2. 高橋 孝雄 君 プロフィール

〔略歴・役職〕

1982年慶應義塾大学医学部卒。

小児科を専門に選び、小児神経学を学ぶために1988年に渡米。マサチューセッツ総合病院小児神経科、ハーバード大学医学部などの勤務を経て1994年に帰国。その後もマサチューセッツ総合病院神経科、Assistant in Neurologyを兼ねる。

2002年に慶應義塾大学教授(医学部小児科学)に就任、学内では、副病院長、医学部長補佐を歴任。その間、12年にわたり感染対策、医療安全、研究倫理などの危機管理に携わった。学外では、小児科学会会長、国際小児神経学会理事、小児神経学会理事長などを務める。

〔主な受賞歴〕

1992年 The Charles A. King Trust Medical Foundation, Young Investigator Award

1994年 三四会賞：マウス胎仔の新皮質発生における細胞分裂様式

1995年 成長科学協会研究奨励賞：大脳新皮質発生における成長因子の役割

1996年 東京都医師会研究奨励賞：大脳皮質発生における細胞分裂に関する研究

2005年 私立大学情報教育協会賞：患者データベースを用いた臨床実習システム

〔主要著書〕

「小児科医のぼくが伝えたい最高の子育て」(マガジンハウス)

3. 三田演説会について

三田演説会は、福澤諭吉を中心に小幡篤次郎、小泉信吉など10余人の義塾の先進者たちによって、演説、討論の研究錬磨の場として1874(明治7)年6月27日に発足し、翌年、日本最初の演説会堂である三田演説館が完成しました。スタイルや話題は変わっても、福澤諭吉の精神は時を超えて三田演説会に脈々と受け継がれています。三田演説館は1967(昭和42)年、国の重要文化財に指定されています。

福澤は、「演説とは英語にて『スピーチ』と云ひ、大勢の人を会して説を述べ、席上にて我思ふ所を人に伝るの法なり」(『学問のすゝめ』十二編)と述べています。演説という概念はその当時の日本には存在せず、多くの聴衆の前で自分の意見を述べるという「演説」を実践しながら、試行錯誤の末に創造されました。経緯は『三田演説日記』などの記録に記されていますが、演説の練習を行うにあたり「決して笑ってはならない」と取り決めたというエピソードが「演説会」創始の苦心を端的に物語っています。

また、福澤は「演説」「討論」などの言葉も創り出しています。「演説」は「スピーチ」の訳語ですが、福澤の出身藩である旧中津藩で藩士が藩庁に対して意思を表明するために用いた「演舌書」という書面に由来します。「舌」という語句は俗的であったために「説」に換えた福澤本人が述べています。

旧来の言葉に「スピーチ」という新しい意味と実体を与えたことに大きな意味があったとされています。さらに「ディベート」の訳語を「討論」と定め、「否決」「可決」などの用語が決まりました。

*本資料は文部科学記者会、新聞各紙社会部・文化部、イベント欄担当等に送信しております。

*ご取材に際しては、事前に下記までご一報下さいますようお願い申し上げます。

【本発表資料のお問い合わせ先】

慶應義塾広報室 安延

TEL 03-5427-1541

FAX 03-5441-7640

Email m-pr@adst.keio.ac.jp

<https://www.keio.ac.jp/>